

南アフリカ リンゴ・ナシ産業の2025年シーズンの展望

[FreshFruitPortal](#) 2025年3月6日

南アフリカのリンゴ・ナシ産業の見通しは明るい

南アフリカのリンゴとナシの出荷シーズンが進行中である。主に西ケープ州で栽培されているナシは、2月から8月までが出荷シーズンで、生産物のほとんどが輸出用に指定されている。リンゴの収穫シーズンは少し早く、1月に始まって5月まで続き、出荷は6月に最盛期を迎える。(訳注: リンゴはCA貯蔵により周年出荷される)

業界団体のHortgroは2025年1月に、同国が今シーズン、前年比4%増となる2,110万箱のナシを輸出すると予測した。リンゴの輸出量は、前年比5%増の5,130万箱に達すると予想されている。

同協会によると、ナシの生産と輸出の増加は主に、涼しい夜などの良好な気候条件に帰することができる。リンゴについては、近年設置された果樹園での生産量の増加、多収性品種の採用、及び天候の回復により、その拡大が促進されている。

Freshfruitportal.com(本サイト)は、同団体の貿易・市場統括マネージャーであるジャック・デュプリーズ氏に、南アフリカのリンゴとナシの今シーズンの現状について話を聞いた。(以下「」は同氏の話)

「2025年のナシとリンゴの収穫と輸出はゆっくりと始まったが、今は本格的になっている。」

2024年はナシの出荷シーズンが例年より早くスタートしたが、今年は予想より7~14日遅く始まった。今年はシーズンが通常のスケジュールに戻っているようである。予想されたとおりの生育条件は良好である。「果実は良好な着色が予想され、外観が良く、成熟が進んでいるため、梱包もうまくいくと期待している。」

リンゴの収穫も始まりは遅かったが、業界は今、最初のピークに向かっている。

「輸出検査に合格するリンゴは5,134万箱(+6%)、ナシは2,125万箱(+5%)に増加すると予想している。これまでの生育条件が素晴らしいので、この予想は控えめかも知れない。」

デュプリーズ氏は、1月の欧州連合(EU)のリンゴの在庫量は前年比5%減で、ナシの在庫量は昨年に比べて4%増加したと指摘する。「これは、南アフリカのリンゴとナシの輸出業者にとってチャンスとなる可能性が高い。」

輸出市場

これまでに84万2千個以上のリンゴが出荷され、輸出の83%がアフリカ向け、残りが主にアジアと中東向けとなっている。ナシについては、268万個が出荷され、32%が中東諸国、28%が欧州連合、16%がロシア、10%が極東とアジア、5%が米国とカナダ、4%が英国、3%がアフリカ諸国に送られた。

デュプリーズ氏は、将来のリンゴとナシの市場について楽観的な見方を示した。

「南アフリカは今や、南半球最大のリンゴ生産国としての地位を確固たるものにしており、また上向きの軌道に乗っている唯一の国である。ナシに関しては、南アフリカは2番目に大きな生産国であり上昇傾向にあるが、南半球の他の生産国は横ばいか、または減少している。」

「我々は、南アフリカがこの上向きの軌道を維持すると予想している。近い将来、南半球で最大のナシ生産国になるかも知れない。南アフリカはいくつもの課題に直面しているが、それは我々だけではない。北半球と南半球の多くの国は、地政学、収益性、農薬規制などの課題に直面している。状況(生産、栽培品種から新市場への物流、既存市場からの需要増加)を考慮すると、南アフリカのリンゴ・ナシ産業の未来は明るい。」